

## 短歌を取り入れた日本語教材創作の試み

杉 浦 キヨ子

### 一章 はじめに

朝日、読売、毎日の三大紙はもとより地方紙に至るまで、日本の新聞には短歌、俳句のページがあり、そこにはあらゆる年代の人々の様々な内容をもった作品が掲載されている。このようなことは世界にも例がなく、日本文化のひとつの特徴ともなっている。

古来より今日に至るまで、日本人は喜怒哀楽の感情や祈りを、五、七、五、七、七の短歌のリズムにのせて表現してきた。有名歌人の作品から無名者のものまで、短歌には日本人の心情、ものの考え方が如実に表現されている。日本語教育が単に日本語を教えるに止まらず、日本の文化を始め日本に関するあらゆることを教えるものであるならば、日本語学習者が短歌を通して学べることは無限にあると言えるだろう。

しかし残念なことにこれまでのところ、日本語教材に短歌が取り入れられた例は多くない。当宮城学院の図書室にある日本語教材五、六十冊の中で短歌が取り上げられていたのはわずか二冊のみであり、その内容も有名歌人の作品を紹介するにとどま<sup>(注1)</sup>っている。

「ハイク」と呼ばれ世界中に広まりつつある俳句とは対照的に、短歌は未だ世界に向けて放たれていない感がある。しかしながらインドの詩聖ロビンドロナト・タゴールは、来日の折に目にした日本の短詩型文学に強く心をひかれ、その後短歌に似た短い詩を数多く書き残している。<sup>(注2)</sup> また、米国の詩人J・ライチホールド氏は、「魂と魂が語らうような

短歌は、世界にまれな豊かな詩型。日本人以外には理解不能と、私たちを切り捨てないで下さい。」と、国際ペン東京大会において発言している(二〇一〇年十月十一日付朝日新聞)。「百人一首」はすでにジェイムズ・カーカップ氏によって英訳されており、万葉集も一部英訳されている。新聞という身近なものに、教材となり得る短歌が豊富にあり、今後短歌も外国人の間に広まっていく可能性がある。

本稿では、先ず短歌作品が日本語学習者にどの程度理解できるものなのか、理解を高めるにはどうすればよいかを探るため、二章において学習者に対しインタビュウを行い、その結果と考察をまとめることとする。三章では二章を踏まえ、インタビュウに用いた短歌十首の教材化を試みることにする。また四章では、三章の短歌教材試作を使ってどのような授業展開ができるかを提示する。

## 二章 日本語学習者を対象としたインタビュウ調査

### 一 目的と方法

日本語学習者にとって、短歌のどの部分が理解しにくいのかを知り、どのような対策をすればよいかを把握するためにインタビュウを行った。インタビュウの回答は筆者がメモを取り、要点を整理した。インタビュウ協力者は表一の三人である。

インタビュウの相手を日本語能力の中、上級者に絞ったのは、現代短歌といえども、古語、文語、旧かな、難解な語彙などが用いられている作品もあるため、初級レベルでの理解は困難と判断したためである。インタビュウに先立って、短歌は日本の伝統的詩型であり、五、七、五、七、七の三十一音から成るものであることを説明した。その上で作品に対する説明は一切加えずに十首を読んでもらい、意味がわかるか、わかりにくいのはどの部分か、一首全体の感想などを自由に答えてもらった。インタビュウに用いた十首は昭和後期から平成にかけて短歌雑誌、新聞、歌集などに発表されたものの中から選んだ。外国人にも共感を得やすいのではないかと考え、十首の中に恋の歌三首を入れた。(④⑧⑨)

の歌)

表一 インタビュー協力者一覧

協力者	調査日	調査時間	所属	日本語レベル	日本滞在暦	国籍
Aさん	二〇一〇年 九月十六日	約二時間	M大学 研究生	能力試験二級	三年半	モンゴル
Bさん	二〇一〇年 九月二三日	約一時間半	M大学 大学院	能力試験一級	半年	中国
Cさん	二〇一〇年 九月二三日	約一時間半	M大学 大学院	能力試験一級	半年	中国

二 インタビュー調査の結果

以下に十首の短歌と、協力者(A、B、C)の回答の要約、及びまとめを記す。

①鳥のため樹は立つことを選びしと野はわれに告ぐ風のまにまに

大塚寅彦

A 木と樹はどうちがうの。よくわからないけど宇宙的な感じがします。樹が立つってどんな意味ですか。「まにまに」もわからない。小さくても大きくても、野の私たちは変わらないという意味ですか。(すばやく電子辞書をひいて) 野は野原と同じ意味ね。

B 樹は鳥のために成長したと、風を通して我に教えた。「まにまに」はわかりません。オノマトペですか。よくわからないけど自然がたくさんある感じがします。

C 小さい樹だと鳥は止まれないから、樹は鳥のために大きくなるという意味かな。樹、鳥、野、風と言葉を多く使っているけど、そのつながりはよくわからない。「まにまに」は、わかりません。

へまじめ

三人共に難しかったとみえて、しばらく考えてからようやく答え始めた。一首の中に四つの名詞（鳥、樹、野、風）と、代名詞ひとつ（われ）があり、その関係が入りこんでいることが原因と思われる。全員「まにまに」が理解できなかった。

②秋の雲「ふわ」と数えることにする 一ふわ二ふわ三ふわの雲

吉川宏志

A さみしい感じの詩。やることなく空を見上げて雲を数えているのかな。言葉そのものは難しくないからわかるけど、モンゴルでは詩つてとても深い意味を持っているのが当たり前です。この詩にはどんな深い意味があるのですか。ただ雲をかぞえているだけなら詩じゃないと思う。

B 春や夏の雲と秋の雲は違う。ちがうのが当たり前。「ふわ」というのは秋の雲にだけ使える言葉だといっている。

C ふわというイメージはよくわかる。秋の雲はきれいですから。これはそういう意味の簡単な詩だと思う。

へまじめ

この歌の中心は「ふわ」という言葉にあって、「ふわ」という作者独自の数詞を考えついた心弾みを楽しんでいる軽い内容であるが、詩とは意味深長なもの考えるAさんは、不満そうであった。BさんとCさんは、日本の秋の気分を理解していた。

③一人ひとりとは繭のごとくに孤独にて西日のさせるバスに揺らるる

真鍋美恵子

A 「繭」は読めない。意味も分かりません。「孤独」って何ですか。「西日」もわかりません。西の方のことですか。「ごつく」ってどんな意味ですか。西に向かって走るバスに一人だけのついているという詩ですか。

B 西日は夕方の太陽のことね。「させる」がわからない。「繭」は日本ではどう読むのかわからないけど小さな虫のことでしょう。人間はその小さな虫に似ているという意味かな。一個一個はばらばらでつながっていないから孤独だという詩。

C 繭は読めませんが、何かの入れ物。バスが一つの大きな入れもので、人間はその中味。さびしい感じ。夕方の仕事帰りのバスの中のことだと思う。

〈まとめ〉

繭は三人とも読めなかった。短歌の場合、視覚的簡潔さも重要であるため、余りルビをふらないが、教材化に当たっては、ルビをふるることが重要であろう。文語表現である「させる」(差せる)の口語訳の補足が必要だと思われる。

④たとへば君 ガサツと落葉すくふやうに私をさらつて行つてはくれぬか

河野裕子

A 私をあなたのそばにつれていってもらえないかしらという意味。その気持ちがわかる気がします。でもどうして道に落ちていた汚れた葉っぱと「私」が同じになってしまうのかわからない。「すくふ」ってどうするの。「ガサツ」ってどんな感じかな。

B 落葉をさつとすくつたらなくなってしまうように、君も私の前からいなくなってしまうかも知れない。それを恐れている。それとも反対に、落葉のように私の前からいなくなってくれという意味ですか。落葉はあまり価値のないものだから、大切なイメージの詩の中には出てこないと思う。「ガサツ」ってちょっと乱暴な感じでしょう。

C 「君」は男。「すくふ」と「さらつて」がよくわからないけど、私のために落葉を何とかして、どこかへ行つてほしいという意味。たぶん愛情の表現だと思う。最後の「ぬか」って何ですか。

〈まとめ〉

やはり旧かなとオノマトペは分かりにくさを増幅させるようだ。理解できない言葉が複数あっても、想像で補い、全

体の意味を多少つかんではいる。三人共に落葉に対して良いイメージを持っていないことがわかった。

⑤生き居れば幾人の子の母ならむ アンネ・フランク 爆死のわが友 新井貞子

A 「幾人」は読めない。でも大切な人という意味だと思ふ。「ならむ」はわかりません。

アンネ・フランクという人のことは、学校で少し習ったから知っているけど、どうしてアンネ・フランクと「友」が並んでいるのかわかりません。二人は友だちだったの。「爆死」って何ですか。

B 「わが友」とアンネ・フランクは同じ人ですか。アンネ・フランクは爆死してないのに、なぜ爆死と書いてあるんですか。もし生きていたら子供をたくさん生んで、お母さんになっていたかも知れないのに、死んでしまったという意味だと思ふ。

C 戦争中の話でしょう。アンネ・フランクは知らないけど、中国の大学で与謝野晶子の「君死にたもうことなかれ」を習いました。よく似ている内容なので、きつと同じような意味でしょう。

へまじめ

人名のある歌の場合、その人がどういう人であるかを説明する必要がある。Bさんは日本に来て初めて図書室の本でアンネ・フランクを知ったとのことである。モンゴルの学校ではアンネ・フランクについて教えるが、中国では教えないようである。二人の人物（二つの物事）を並列する意味が、三人とも理解できなかった。

⑥ゆめにあふひとのまなじりわたくしがゆめよりほかの何であらうか 紀野恵

A 本当は現実なのに自分には夢のように思えるという詩でしょう。そんな感じがするんだけど。「まなじり」って何ですか。「あらうか」の意味が全く分かりません。「あふひと」って、どんな人のことですか。

B 中国人にひらがなだけの文は、とてもわかりにくいです。漢字のほうがいい。なぜこの人は漢字を使わないのですか。漢字がわからない人なのか。どこで言葉を区切ったらいいかわからないので、内容も分かりません。

C 夢は大切という意味の詩でしょうか。「まなじり」ってなんですか。「くであろうか」の意味はだいたいわかります。この詩は無常観を表現していると思います。

〈まとめ〉

一文字以外、ひらがな表記の作品であり、読みやすくわかりやすいと予想したが、全くの見当ちがいであった。ひらがなを使用した作者の意図は伝わらず、漢字を母語とする中国人には読みにくいようでも不評であった。三人とも「まなじり」が理解できなかった。また「会う人」ならばわかりやすいが、「あふひと」と旧かなで表記されるとわからなくなる。それは旧かなに馴染んでいない日本の若い世代も同じであろう。

⑦死ぬ母に死んだらあかんと言はなんだ氷雨が降ればしんしん思ふ

池田はるみ

A 「あかん」って何のこと。「氷雨」は何と読むかわからないけど、冷たい雨のことでしょう。「しんしん」は心の深いところという意味だと思う。「言はなんだ」の部分もよく分らないから、全部の意味もよくわかりません。

B 死んだらだめといわなかった。死ぬことは必然なので、誰にも止められない。「あかん」って、だめという意味でしょう。それは知っているけど、でも「あかん」って正しい日本語じゃないでしょう。正しくない言葉を、大切な詩に使ってもいいんですか。

C 「言はなんだ」は、言わないでという意味ですか。「しんしん」はよくわからない。病気で死にそうな母に、まだ死んだらだめと、一度も言ったことがないのがやしい、さみしいと雪の中を歩きながら思っている。

〈まとめ〉

この歌でわかりにくかったのは、「言はなんだ」「あかん」「しんしん」の三つであった。正しい日本語である「だめ」

よりも、方言である「あかん」の方がこの歌にはびつたりするのだということ、むしろ「あかん」でなくてはだめなのだということを、外国人に説明するのは、少々難しい。「しんしん」というオノマトペに漢字を当てるとすれば、深深、沈沈、津津が考えられるが、日本語のオノマトペを説明するのは、簡単ではない。短歌を教材とすることの難しさは、こういった点にもあると言える。

⑧ 観覧車回れよ回れ想ひ出は君には一日我には一生

栗木京子

A 「観覧車」って、どんな車ですか。この詩の意味はだいたいわかります。車にのつて一緒にあそんでも君には一日だけのことも知れない。でも私には一生の大事なことであるという意味です。「君」って男の人でしょう。男の人はすぐ忘れる。

B デートのとき君と一緒に観覧車に乗ったことは、君には一日だけの思い出だろうと思っっている。作者は君が好きだけど、君の方はそうじゃない。観覧車にずっと回っていて欲しいと思っっている。

C 観覧車と一緒に乗って一日だけ付き合っても、私は一生忘れない。でも君はすぐに忘れるかも知れない。観覧車ってあれでしょう。遊園地にある大きな乗りものでしょう。

〈まとめ〉

観覧車を知らない一名がいたが乗り物であることは理解した。三人共にこの歌の意味をよく掴んでいた。恋愛の場面における男女の、心情の違いには、国境がないのかも知れない。

⑨ 「また電話しろよ」「まってる」 いつもいつも命令形で愛を言う君

俵万智

A 好きな相手なら少しくらい命令されても許せるかな。男らしくていいかも知れない。でもずっと命令ばかりされた

- ら嫌になると思う。最初のときだけならいいけど。命令ばかりしないで、自分の方からも電話をかけた方がいいのに。
- B 君はいつも命令形を使つて話す。それは、愛情の表現だと思うけど、作者は少し不満だと思う。
- C 君に対して少し文句があるけど、相手の愛情を受け止めている。でも本当はもっとやさしい方がいいと作者は思っている。

へまとめ

三人ともこの歌の理解度は高かった。その理由として、特に難しい語彙が使用されていないこと、日本語学習で「命令形」をすでに学習していること、回答者自身の恋愛経験などが挙げられるだろう。恋愛感情には万国共通の部分があるようだ。

⑩ひとり来てて孤りにて去るふかぶかと悔しみ積もるこの地表より

小高賢

A 「去る」「悔しみ」「ふかぶか」の意味がわかりません。「地表」の意味はだいたいわかります。地球の表面のことでしょう。でも、全体の意味はよくわかりません。

B この世界にくるのも一人、去つていくのも一人。その後の意味はよくわかりません。「悔しみ」は後悔することですか。「ひとり」と「孤り」はきつと意味がちがうんだと思うけど、どちらがうかはわかりません。「積もる」ってなぜつもの。「地表」は自分がいるこの場所という意味だと思う。「ふかぶか」はどんどん深いという意味だと思うけど、「悔しみ」がなぜつものかよくわかりません。

C 人は誰でも必ず失敗をして後悔するものだという詩。人間は一人で生まれ、一人で死ぬのはあたり前でよくわかる。なんだかあたり前の詩だと思う。

へまとめ

思うにまかせぬ人生の理不尽を表現した内容の作品であるが、人生経験の少ない二十代の学生には少々難解であった

ようだ。この歌は人生も後半に至って始めて、しみじみと理解できるものなのかも知れない。この一首の中で注意すべきは「ひとり」と「孤（ひとり）」の表記である。Bさんが指摘したように両者の意味は多少違う。歌の意味を深めるために、敢えて同じ言葉の表記を変えることは、短歌でよく使う手法であるが、「ひとり」「一人」「独り」「孤り」の微妙な違いをどう説明するか。また「一人」と書いて「いちにん」と読むこともあるが、では「一人」と「一人」は違うのか。一首の内容によっても意味がちがってくるため、説明の難しいところである。

### 三 考察及び教材創作の方法

ここでは全体の考察をしながら、教材創作の方針をのべていく。インタビューの結果、三人に共通していたのは、旧かな表記と文語表現、そしてオノマトペの理解度が低かったことである。反面、わからない部分があっても、理解できた部分をつなぎ合わせて、ある程度まで全体の意味を推測することは三人共にできていたといえる。漢字圏（中国）の学生は、十首中「繭」「悔しみ」以外の漢字が読め、漢字の意味の理解度も高かった。非漢字圏（モンゴル）の学生は、日本語能力が中級レベルということもあり、読めない漢字が多く、漢字の意味の理解度もやや低かった。予想外であったのは、中国人学生が、ひらがなの多い作品はわかりにくいと発言したことである。同音異義語が多い日本語ゆえの問題であろう。ひらがなだけの文章は一見やさしく見えるが、どこで区切るのかわかりにくく、従って意味も掴みにくいということを再認識した。ひらがなの多い歌には注釈の際、必要に応じてひらがなの横に漢字を付すことにする。

モンゴル人学生からは、「作者の性別がわかった方が内容を把握しやすいのに、名前を見ただけでは男か女かよくわからない。『子』が付いていれば、たぶん女かなと思うけれど、他のはわからない。」との指摘があった。取り上げた十首中、「君」の語がある作品は三首あり三首とも男性を指す内容である。しかし日本では女性を指して「君」と言うこともよくあるため、作品を充分に理解するためには、作者の性別を知る必要が生じる場合もあると言える。その場合は注釈の中で、作者の性別にもふれることにする。

インタビューの結果をふまえ、漢字にはルビをふり、旧かなには新かなの（注）を付し、文語には口語の（注）を付

すこととする。また一句ごとに一マスあけて区切りをはつきりさせ、読みやすくする。その上で、わかりにくいと思われる語句の説明をし、さらに筆者独自の解釈を加えることとする。

### 三章 教材のための作品注解の試み

以下は二章のインタビュー調査と結果、考察をふまえて、インタビューに使用した歌十首の教材化を試みたものである。右はルビ、左の（ ）は注、語句の意味は『広辞苑六版』（二〇〇八 岩波書店）を参考にし、一首に添う意味を優先した。

①鳥のため樹は立つことを選びしと野はわれに告ぐ風のまにまに

大塚寅彦

鳥のため 樹は立つことを 選びしと 野はわれに告ぐ 風のまにまに

（んだ）（私）（告げる）

樹（木）樹木におなじ）野（野原。草などが生えている広い場所）まにまに（副詞、自然のなりゆきにまかせること、用例↓波のまにまに漂う）

〈解釈〉「樹が立つ」は樹が繁るの表現。樹々が繁るのは、鳥を止まらせてあげるためなんだよと、風に吹かれてゆれている野原が私に教えてくれた。自然はすべて繋がりが合っている。人もまた誰かのために一生懸命生きていく。

②秋の雲「ふわ」とかぞえることにする 一ふわ二ふわ三ふわの雲

吉川宏志

秋の雲 「ふわ」と数える ことにする 一ふわ二ふわ 三ふわの雲

ふわ（やわらかく、ふくらんで浮いているようす）

〈解釈〉 ふつう雲は一筋二筋、あるいはひとひら、ふたひらと数える。この歌の作者は、秋の雲だけは一ふわ二ふわと、数えること

に決めたという。ただそれだけの内容であるが「ふわ」という秋の雲にびつたりの数詞を思いついた嬉しさに作者の心はずんである。

③一人ひとりは繭のごとくに孤独にて西日のさせるバスに揺らるる 真鍋美恵子

一人ひとりは 繭のごとくに 孤独にて 西日のさせる バスに揺らるる

(よう) (で) (さしている) (れている)

繭(昆虫の蛹を保護するもの。生糸の原料) 孤独(ひとりぼっち、仲間がないこと) 西日(夕方の太陽の光) 西日のさせる

(西日が差している)

〈解釈〉 夕方のバスに何人も人が乗り合わせているが、一人一人まるで繭の中にこもっているかのように、黙って窓からさす夕日にてらされて揺れている。人はみんな孤独な生き物だ。

④たとへば君 ガサツと落葉すくふやうに私をさらって行ってはくれぬか 河野裕子

たとへば君 ガサツと落葉すくふやうに 私をさらって 行ってはくれぬか

(え) (うように) (ないか)

〈解釈〉 ねえあなた。落葉をガサツと乱暴にすくうように、私をどこへでもさらって行ってくれませんか。女性の方からの求婚。それほど大切に扱われなくても私は平気。愛するあなたと一緒に、それでいいのだと言っている。日本人には落葉を美しくはかないものとする心情がある。

⑤生き居れば幾人の子の母ならむ アンネ・フランク 爆死のわが友 新井貞子

生き居れば 幾人の子の 母ならむ アンネ・フランク 爆死のわが友

(いきていたならば) (何人) (であろう) (私の)

爆死(爆弾が破裂し、それに当たって死ぬこと)

〔解説〕 もしも戦争で死なずに生きていたならば、何人の子供のお母さんになっていたのだろうか。ナチスの強制収容所で殺されたユダヤ人少女アンネ・フランクや、空襲（空からの攻撃）で殺された私の友は、殺された状況は違ってもアンネ・フランクも作者の友も戦争によって、未来をすべて消されたのだ。何と残酷で理不尽な戦争であることか。

⑥ ゆめにあふひとのまなじりわたくしがゆめよりほかの何であらうか 紀野恵

ゆめにあふ ひとのまなじり わたくしが ゆめよりほかの 何であらうか

(夢に会う) (人) (私) (夢の) (あろうか)

まなじり(目じり、目の端)

〔解説〕 人間の一生は夢幻(夢とまぼろし)のようなものだと、よく言われる。そのはかない人生の中で、人は人を愛したり憎んだりする。この歌の作者が夢の中で逢った人は、どういう関係の人であろうか。まなじり(目じり)は、下がると喜びの表情(表現)となり、まなじりを上げると、怒りの表情(表現)となる。夢に現れた人のまなじりはどうだったのであろう。作者は、夢に現れた人も、夢の中でその人に会った自分も、すべては夢まぼろしにすぎないと言っている。恋も憎しみもすべて夢まぼろし。

⑦ 死ぬ母に死んだらあかんと言はなんだ氷雨が降ればしんしん思ふ 池田はるみ

死ぬ母に 死んだらあかんと 言はなんだ 氷雨が降れば しんしん思ふ

(だめだ) (言わなかつた) (う)

あかん(だめだ、関西地方の方言) 水雨(みぞれ、冬のきわめて冷たい雨) しんしん(深く静かなようす、たえず湧き出るさま)

〔解説〕 死んでいく母親に「死んだらだめ、お母さん死なないで」と言っておげなかつた作者。言い忘れたのではない。言えなかつたのだ。作者は母親の死を心のすみで望んでいたから、死なないでと言えなかつたのである。そして心の中まで凍えるような氷雨が降るたびに、思い出しては自らを責める。

⑧ 観覧車回れよ回れ想ひ出は君には一日 我には一生  
観覧車 回れよ回れ 思ひ出は 君には一日 我には一生

栗木京子

(思い出) (いちにち)(私)(いっしょ)

〈解釈〉有名な相聞歌(恋の歌)。男女どちらも同じくらの強きで恋するなら幸せだけれど、どちらか一方の思いが強い場合は悲しい。この歌のように一緒に観覧車にのつて、空高く上がり、夢のようなひとときを過ごしても、君はすぐに忘れるだろう。しかし作者には一生忘れることはできない。

⑨ 「また電話しろよ」「待つてろ」いつもいつも命令形で愛を言う君  
「また電話しろよ」「待つてろ」いつもいつも 命令形で 愛を言う君

俵万智

〈解釈〉軽やかな恋人たち。お互いの愛情を信じているから、命令形で言えるのだろう。作者もほんの少し不満に思いつながらも、半分は喜んでいる。うまくいつている間は問題なし。五、七、五、七、七の定型を破つた歌。

⑩ ひとり来て孤りにて去るふかぶかと悔しみ積もるこの地表より  
ひとり来て 孤りにて去る ぶかぶかと 悔しみ積もる この地表より

小高賢

(深く深く) (から)

悔しみ(悲しみ、苦しみなどの「しみ」と同じ。くやしき、腹立たしき、情なき、無力感、後悔)  
〈解釈〉人は生まれてくる時も、死んでゆく時も一人。同じ一人でも生まれてくる赤ん坊に孤独感はない。しかし一人で死んでゆく人間は孤独そのものだ。それゆえ作者は「ひとり」と「孤り」を使い分けた。「孤り」は、孤独の深い淵にいる一人である。人は小さな地の表面にしがみついて生き、やがて死んで消え去る。そのあとには、人が残した「悔しみ」が深く積っているのだという。この歌の作者の「悔しみ」とは、いったいどのようなものだったのだろうか。

大手出版社の編集長として腕をふるい、短歌関連の著書も多数ある作者であるが、それでも人に言えぬ悔しみがあつたのであろう。暗い歌であるが、大方の人は思い通りにならない一生を送っている。ある程度年齢を重ねた人には、どこかしみじみと共感できる心情ではないだろうか。

#### 四章 注釈を付した短歌教材（試作）を使ってどのような授業展開をするか

日本語の授業に短歌を導入する際には、その季節に合った内容のもの、または学習者の年代に合ったもの、あるいは、その時話題になつているニュースなどに関連した作品を選ぶのがよいだろう。そして先ず、一首の中にどのような語句が使われ、どんな効果をあげているか、一つ一つの語句について確認をする。次にそれらの語句を、同じような意味をもつ他の語句に置き換えるとしたら、どういう語句が考えられるか、その語句に置き換えたら一首の意味がどう変化するのか、そういったことを学習者と共に考えてみたい。語句から入って、次の段階では一首全体の鑑賞に入る。作品を書いた人の心情を推測し、自分なら同じ内容をどう表現するかを学習者に考えさせ、最終的には学習者自身に短歌を作らせるところまでもつていきたい。

短歌のように使える字数が限られている場合、必然的に使う語句を厳選しなければならない。自らの思いを表現するのにどの語句が最もふさわしく、そして効果的であるか、知っている限りの語句を思い浮かべて真剣に言葉と向き合わなければならぬのである。そういった努力や訓練は必ずや学習者の表現力を高めると確信する。類義語をいくつか書き並べて、どれがいいか考えたり、新しい語句をさがしたり、そういう作業を経て、よりふさわしい語句に行き着いたときの嬉しさを学習者に味わってもらいたい。時には、それぞれの学習者の母語で作った作品と日本語で作ったものを比べてみるのもおもしろいであろう。

また、学習者が作った短歌を発表してもらい、作者が表現したかったことと読んだ人が受け止めたことの相違についても検討をする。そうすることで、言葉によって自らの心情を的確に伝えることの難しさに気付くこともあろう。

## 五章 おわりに

三章の注と解釈を加えた教材試作を再び三人の協力者に読んでもらったところ、三人から最初に読んだときよりずっとよくわかるとの返答を得た。しかし、それでもまだ作者の心情が理解できないままの歌もあった。(⑦⑩の歌)

学習者の年齢やおかれた立場などの違いにより、説明だけでは理解の及ばない場合があるということであろう。このことから、教材にする作品選びが重要といえる。また、取り上げる歌の内容によっては文法的な説明が必要な場合もあり得るが、とりわけ文語文法は学習者にとってハードルが高く、大きな課題のひとつといえる。本稿では文法による説明を特に行わなかったが、今後短歌を教材化する上で考慮が必要な点だと思われる。

近年日本語教育の最前線では、学習者の日本語能力アップのための一つの方法として、「多読」が注目されている。アスク出版からは、『レベル別日本語多読ライブラリー』と題して、初級、中級向けの文学作品リライト版が数多く出版されている。<sup>注3</sup> 学習者にとつて、日本の文学作品を翻訳ではなく、自らの日本語能力によって読むことができ、大きな自信につながるであろう。

今回の短歌教材創作の試みではリライトにふれなかった。他者の短歌作品を許可なく書きかえることには、さまざまな問題があると思われるからであった。しかし、与謝野晶子の『みだれ髪』を現代風に書きかえた俵万智の例もある。<sup>注4</sup>

もしも短歌作品のリライトが許されるのであれば、日本語能力初級の学習者向けにリライトを試みる価値はあるであろう。長い文章を読むことが苦手な学習者も、たった三十一文字の短歌ならば取り組みやすいのではないか。今後の課題の一つとして短歌のリライトを挙げておきたい。

(注1) 阿部祐子、亀田美保、桑原直子、田口典子、長田龍典、古家淳、松田浩志、(二〇〇八)『テーマ別、上級で学ぶ日本語改訂版』 研究社

姫野昌子、伊東祐郎、(二〇〇七)『日本語基礎Bコミュニケーションと異文化理解』 日本放送出版協会

(注2) 英語原題『Stray・Birds』『迷い鳥』(二〇〇九)、『Fire・flies』『蛍 タゴール詩集』(二〇一〇)、共に川名澄訳、風媒社

(注3) 上田秋成、泉鏡花、芥川龍之介、幸田露伴等々、日本を代表する作家たちの文学作品が、場面の説明を加えたり、挿絵をつけたり、文章を短く簡素化するなどの工夫を施されて、読みやすく理解しやすいようになっている。

(注4) 俵万智(一九九八)『みだれ髪 チョコレート語訳』河出書房新社